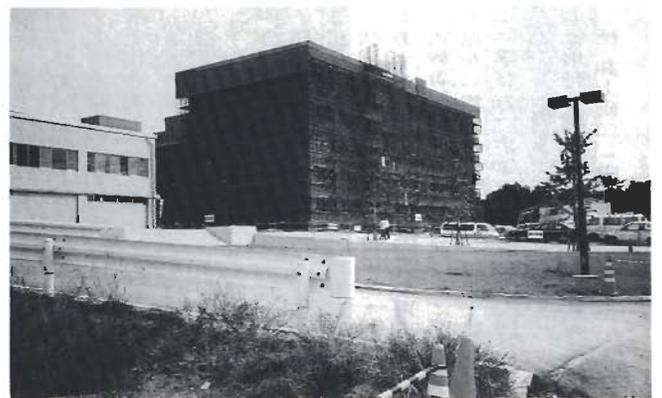


ヘンリー・ウォレス氏
(マツダ社長)の講演会
に行こう!

十二月 七日	岸本芳宣 (平四法学部卒)	住友銀行広島支店取引先課員	「国際化社会における銀行員」
十一月 十四日	石田賢次 (昭三六政経学部卒)	現佐竹製作所取締役・元広島銀行取締役	「企業文化のなかで―元金融マンの半生―」
十一月 二十一日	前田恒彦 (平二法学部卒)	広島地方検察庁検事	「検事の仕事―学生時代の夢と現実―」
十月 二十八日	目光紀 (昭四六政経学部卒)	中国新聞編集局編集部(経済部アシス)	「新聞制作の現場から」
十一月 五日	大井博洋 (昭三四政経学部卒)	荏原製作所中国支店担当部長	「人類は生き残れるか?」
十二月 十二日	中津正博 (昭三三政経学部卒)	シンコー取締役管理本部長	「ある小さい世界―企業」
十二月 十九日	横繁隆壽 (昭三〇政経学部卒)	中国電力取締役副社長	「電気事業あれこれ―私の歩いた道」
一月 九日	菅原良郎 (昭三七政経学部卒)	広島県企画振興部長	「地方自治の課題」
一月 十六日	仲正 (昭四六政経学部卒)	総務庁行政監 造へ向けての協課行政相談官	「法と変革―創造へ向けての協課行政相談官 同は可能か」
一月 二十三日	綿谷陽子 (昭五三政経学部卒)	広島市総務局 人事部給与課課長補佐	「地方公務員―女性の時代?」
一月 三十日	加藤公敏 (昭三二政経学部卒)	弁護士	「弁護士三十二年」



外壁工事が終わった事務局庁舎

本部、十二月から新庁舎へ移転

本部の新庁舎への移転日程が公表された。それによると、新庁舎の竣工予定日は今年の十二月十日で、十二月二十五日から二十七日の学生部の移転を皮切りに、施設部が一月二十三日、二十四日、庶務部と調査室が二十七日、二十八日、経理部と附属学校部が二十九、三十日、公式移転日は二月一日となっている。

理学部の嶋田教授ら
学会賞等を受賞

理学部の嶋田拓教授と赤坂甲治助教授は、「ウニ初期胚における遺伝子発現調節機構に関する」研究により、日本動物学会賞を受賞した。

また、学校教育学部の古賀信吉助手は、去る八月十二日、「熱測定による固相反応速度論の理論と応用」に関する研究業績により国際熱測定学会連合(ICTAC)の「Young Scientist Award」を、医学部の山野上敬夫助手は、九月十六日、ラット大動脈(CO)収縮に及ぼすグランジン誘導体、OP-2507の影響により、新しく開発された薬剤の血管反応性に及ぼす影響を明らかにしたことで、「第五回国際心臓胸部血管麻酔学会の四大抄録賞」を受賞した。

そのほか、三月二十九日には、医学部附属病院の東俊晴助手が「第一回日本麻酔学会若手研究者奨励賞」を、四月十七日には原医研国際放射線情報センターの田中英夫助手が「第五十七回日本血液学会奨励賞」を、五月二十七日には、医学部の瀬尾明彦講師が財団法人姿勢研究所から「平成七年度優秀論文賞」を、七月十四日には医学部附属病院の森田栄伸講師が日本皮膚アレルギー学会から「優秀

ポスター賞」を、七月十九日には医学部の宇根瑞穂助手が東京田辺製薬株式会社から「ウルソ賞」を、九月十二日には、歯学部末井良和助手が「日本歯科放射線学会賞(学術奨励賞)」を、それぞれ受賞した。

生態実験園で
稲刈りと収穫祭開催

十月十七日、生態実験園で、今年の初夏に植えられた古代米の稲刈りが行われた。原田学長や外国人留学生らも参加し、たわわに実った黄金色の稲が刈り入れられた。この生態実験園の面倒をみてこられた理学部の豊原講師らとともに、参加者全員で農作を祈った。

この後、学内で採れたきのこ、栗、芋、黒米などを持ち寄って収穫祭を行い、深まりゆく秋を満喫した。



▲生態実験園での稲刈りの様子

お詫び
前号(二十八期三号)のニューズダイジェストの記事のうち、「東広島キャンパスの夜間交通規制」中、「ただし土曜日、日曜日、祝祭日は終日」とあるのは誤りで、土曜日、日曜日、祝祭日も、実施時間は二十一時から翌朝六時まででした。お詫びして訂正します。

連絡先 法学部・経済学部庶務係
TEL 〇八二四―二四―七二〇五
FAX 〇八二四―二四―七二二二